宮城県公文書館年報

第１３号

平成２５年度

公文書館（宮城県図書館２階西側）

宮城県公文書館

Miyagi Prefectural Archives

目次

Ⅰ 公文書館の概要
１ 設置目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２ 業務内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
３ 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
４ 組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
５ 予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
６ 施設・設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
Ⅱ 平成２５年度事業の概要
１ 資料の選定・収蔵・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
２ 簿冊・絵図面の内容調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
３ 閲覧台帳等の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
４ 書庫特別整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
５ 保存対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４～５
⑴ 補修
⑵ マイクロフィルム化・複製化
⑶ 資料デジタル化
⑷ 書庫くん蒸
６ 利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
７ 広報普及・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６～９
⑴ 展示
⑵ 広報誌の発行
Ⅲ 平成２６年度事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９～１０

Ⅰ　公文書館の概要

１　設置目的

　宮城県公文書館は，「公文書館条例」（平成１２年宮城県条例第１３２号）に基づいて設置された施設であり，歴史資料として重要な公文書等を保存し，県民共有の文化遺産として後世に伝えるとともに，閲覧，複写その他の利用に供することを目的とする。

２　業務内容

　公文書館の主な業務は，次のとおりである。（宮城県公文書館条例施行規則第２条）

（１）歴史的価値を有する公文書その他の記録（以下「公文書等」という。）の保存に関すること。

（２）公文書等の閲覧その他の利用に関すること。

（３）公文書等の調査研究に関すること。

（４）前３号に掲げるもののほか，公文書館の設置の目的を達成するために必要な事業

３　沿革

昭和６３年６月	公文書館法施行
平成元年度～	保存期間満了文書の中から歴史的・文化的価値の高い公文書の選別・収集・保存を開始
元年１１月～２年３月	宮城県公文書館構想庁内ワーキンググループ設置
２年１０月～３年３月	宮城県公文書館（仮称）建設検討委員会及び建設検討ワーキンググループ設置
３年７月～４年３月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会を設置(有識者７名)
４年３月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会から知事へ公文書館建設について提言
４年１０月～５年３月	宮城県総合情報センター・公文書館（仮称）建設基本構想を策定
５年４月	他施設（国際交流プラザ）との併設を検討
９年７月	新図書館建設による旧図書館利活用庁内ワーキンググループ設置
１１年１月	公文書館建設基本構想（平成５年３月）を断念し，旧図書館の活用を決定
１３年４月１日	宮城県公文書館条例・同条例施行規則施行
１３年４月２１日	宮城県公文書館開館
１４年６月	第１４回都道府県・政令指定都市等公文書館長会議を当館で開催（国立公文書館主催）
１５年１１月	第２９回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会（同協議会・宮城県主催）開催
２３年２月	宮城県図書館への移転に係る施設改修経費が２月議会で議決
２３年３月１１日	東日本大震災による被害甚大
２４年８月～１０月	東日本大震災復旧工事
２４年１２月	宮城県図書館改修（新公文書館）工事竣工
２５年１月～３月	宮城県図書館（新公文書館）へ移転（平成２５年４月２日移転後の開館）

４ 組織（平成２６年３月３１日現在）

館長（１名） ―― 次長（総括担当）（１名）
- 班　員（２名）
- 公文書等専門調査員（４名）
- 震災対応事業嘱託員（公文書保存担当）（８名）

５ 予算　平成２６年度当初

資料保存事業費	１８，３５２千円
庁舎管理経費	１６，９３５千円
管理事務費(緊急雇用)	１７，４０７千円
合　計	５２，６９４千円

６ 施設・設備

（１）施設

① 名　称　宮城県公文書館

② 所 在 地　仙台市泉区紫山一丁目１番地１号（宮城県図書館内２階西側）

③ 敷地面積　５５，２７８.74㎡（宮城県図書館の敷地面積）

④ 構　造　鉄骨鉄筋コンクリート造り地下１階地上４階建て
うち公文書館分は，１階２階部分の一部

⑤ 建築年月　平成９年９月竣工

⑥ 建築面積　６，３６５.02㎡（図書館・公文書館の合計）

⑦ 延べ床面積　１８，１００.63㎡（図書館・公文書館の合計）
うち公文書館分は，７６１.61㎡

⑧ 駐 車 場　面　積　６，７００㎡（図書館・公文書館の合計）
台　数　３００台（図書館・公文書館の合計）

⑨ 公文書館専用部分内訳

１　階		２　階	
室　名	面　積	室　名	面　積
書　庫	493.44㎡	事務室及び閲覧室	190.31㎡
（書庫内側面積）	(344.0㎡)	展示スペース	6.22㎡
消火設備機械室	17.88㎡	公文書調査室	36.62㎡
		倉　庫	17.14㎡
１階計	511.32㎡	２階計	250.29㎡

（２）設備

- 昇降機　１台（執務室）
- 検索テーブル　２卓（閲覧室）
- 閲覧用テーブル　９卓（閲覧室）
- 絵図面閲覧テーブル　２卓（閲覧室）
- ﾏｲｸﾛﾌｨﾙﾑﾘｰﾀﾞｰﾌﾟﾘﾝﾀ　１台（閲覧室）
- デジタルブックコピー　１台（執務室）
- 展示ケース（移動式）２台（展示コーナー）
- 荷物置ロッカー　１台（廊下）

Ⅱ 平成２５年度事業の概要

１　資料の選定・収蔵

保存期間の満了した公文書の中から，歴史的価値を有する公文書を選定し，収蔵した。

（平成２６年３月末現在）

区　分		平成２４年度末 所　蔵　数 (a)	年号・年度 区分訂正 (b)	平成２５年度 収　蔵　数 (c)	平成２５年度末 所　蔵　数 (a+b+c)	備　考
公文書	明治期公文書	3,671	0	0	3,671	
	大正期公文書	1,692	0	0	1,692	
	昭和期公文書	25,472	0	397	25,869	
	平成期公文書	4,912	0	266	5,178	
	計	35,747	0	663	36,410	
絵　図　面		1,565	0	0	1,565	
行政資料等		8,168	0	231	8,399	
合　　計		45,480	0	894	46,374	

２　簿冊・絵図面の内容調査

（１）簿冊及び絵図面のタイトル，作成年度，記載内容，公開・非公開区分，破損状況，補修要否などを調査した。　（平成２６年３月末現在）

区　分	平成 24 年度末 調査済数	平成 25 年度中 調査数	平成 25 年度末 調査済数	備　考
簿　　冊	29,280	772	30,052	昭和 57 年度まで
絵　図　面	1,565	0	1,565	
合　　計	30,845	772	31,617	

（２）利用制限基準の改定（平成２１年度改定）に伴う公開の可否及び利用制限期間について，再調査した。　（平成２６年３月末現在）

区　分	明治期公文書	大正期公文書	昭和期公文書 昭和 51 年度まで	合　計
対象簿冊数	3,671	1,692	20,889	26,252
平成 24 年度末 再調査済数	679	309	776	1,764
平成 25 年度 再調査済数	131	0	214	345
残	2,861	1,383	19,899	24,143

３　閲覧台帳等の整備

完結後３０年以上経過したすべての所蔵資料名と内容調査が終了した資料の調査結果のデータについて，収蔵資料等検索システムに入力するとともに，年度別及び分類別の閲覧台帳を作成し，窓口に備え付けた。

４　書庫特別整理

平成２４年１０月１日から３１日まで，移転前の書庫特別整理として，リストに基づいて簿冊及び絵図面の配架場所や収納場所などを確認し，移転後の新書架への配架順に資料の移動を行った。また，引越による移動に耐えられるように補修及び養生を施した。

５　保存対策

（１）補修

簿冊の内容調査に合わせて，ホチキス，クリップ等金具の除去と紙縒による綴じ直し，破れている綴じ穴の和紙による裏打ち補修，セロテープ貼り写真の糊による貼り直し，及び「まくら」をはずして綴じ直すなどの補修を行った。内容調査時以外においても，破損を発見した際には補修を行った。また，書庫特別整理期間中においても整理を行った。

修復簿冊数　（平成２６年３月末現在）

	明治期公文書	大正期公文書	昭和期公文書	平成期公文書	合　計
平成 24 年度	314 冊	147 冊	864 冊	35 冊	1,360 冊
平成 25 年度	67 冊	30 冊	721 冊	55 冊	873 冊
計	381 冊	177 冊	1,585 冊	90 冊	2,233 冊

（２）マイクロフィルム化・複製化

（平成２６年３月末現在）

区　分		平成 24 年度末 収蔵数　a	平成 25 年度 作成数　b	平成 25 年度末 収蔵数　a+b	備　考
マイクロ	公　文　書	409 巻	9 巻	418 巻	418 冊分
	行政資料等	151 巻	0 巻	151 巻	151 冊分
	計	560 巻	9 巻	569 巻	
	絵 図 面 等	5,762 ｺﾏ	0 ｺﾏ	5,762 ｺﾏ	1,527 点分
複製	絵　図　面	1,176 枚	117 枚	1,293 枚	

（３）資料のデジタル化

こんにゃく版や湿式コピー文書等，褪色の可能性のある文書を含む簿冊一覧から台帳を作成し，デジタルカメラで撮影し，デジタルデータをＨＤＤに保存した。

（平成２６年３月末現在）

区　　分	明治期公文書	大正期公文書	昭和期公文書	合　　計
平成 24 年度末	655 冊	222 冊	0 冊	877 冊
平 成 25 年 度	111 冊	197 冊	0 冊	308 冊
平成 25 年度末	766 冊	419 冊	0 冊	1,185 冊

（４）書庫のくん蒸

毒性が弱いとされる薬剤ミラクン S（ピレスロイド系フェノトリン）を使用し，移転後の書庫において，平成２４年度に選定した資料の移管６６３冊を加え７月に３日かけて実施した。

６　利用状況

完結後３０年以上経過した文書を，個人情報等に配慮しながら，閲覧や複写サービスの提供に努めた。

（１）来館による利用状況　（平成２６年３月末現在）

区　　分	閲覧室利用者数　a	資料閲覧利用冊数	複写申請件数	展示室入者数　b　※	入館者数合計　a ＋ b
４月	52	187	22	0	52
５月	66	377	26	0	66
６月	46	75	9	0	46
７月	83	138	14	0	83
８月	58	158	13	0	58
９月	44	148	12	0	44
１０月	54	94	13	0	54
１１月	50	162	13	0	50
１２月	44	112	12	0	44
１月	47	124	13	0	47
２月	30	117	8	0	30
３月	52	259	19	0	52
合　計	626	1,951	174	0	626
１日平均（稼働 233 日）	2.69	8.37	0.75	－	2.69

※　移転後の公文書館は，展示コーナー（温故回廊）のため，利用者把握が困難であった。

（２）その他の利用状況　（平成２６年３月末現在）

出版物等掲載許可	レファレンス件数		
	メール	メール以外	計
９	２４	１５	３９

２階公文書館前ロビー

閲　覧　室

７　広報普及

歴史資料として重要な公文書等を保存し後世に伝えていくことの必要性等について，県民の理解を得るため，移動展・常設展を開催するとともに、「年報」や「公文書館だより」を発行し，ホームページに掲載した。

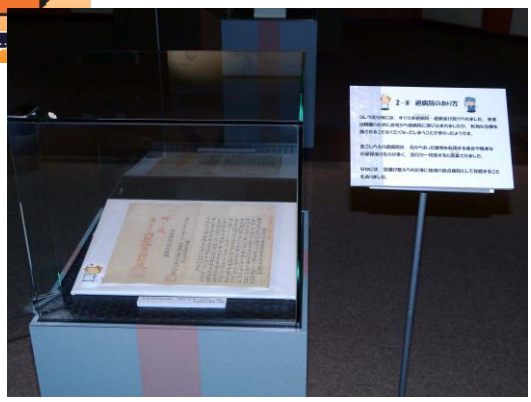
（１）展示

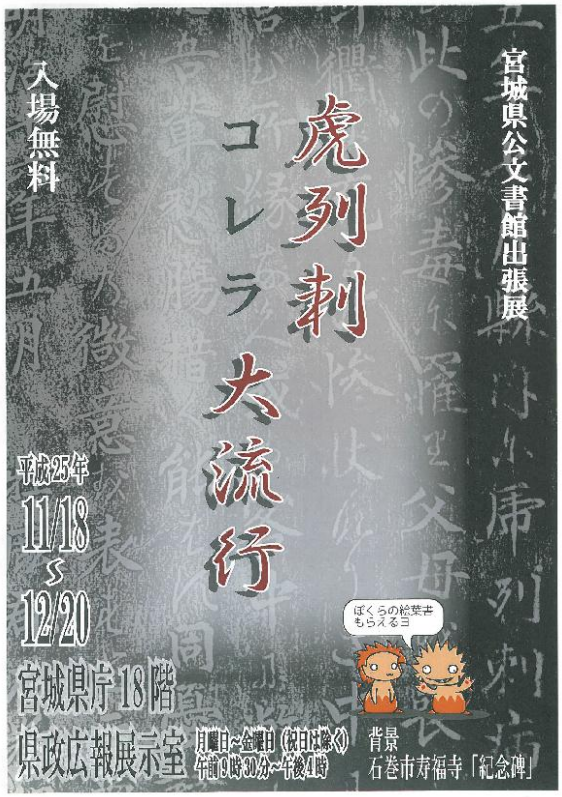
区分		テーマ	場所	期間	入場者数
温故回廊（常設展）	第１回	移転後の公文書館周辺のむかしを紹介	展示コーナー（温故回廊）	平成 25 年 5 月～平成 25 年 12 月	－
	第２回	コレラ大流行	展示コーナー（温故回廊）	平成 25 年 12 月～平成 26 年 3 月	－
移動展	県　庁	コレラ大流行	県庁広報展示室	平成 25 年 11 月 18 日～12 月 20 日	６９６人
	合同庁舎	コレラ大流行（大崎版）	大崎合同庁舎ロビー	平成 26 年 2 月 21 日～3 月 31 日(4 月 25 日)	－

【出張展（県政広報展示室：宮城県庁１８階）】

近代日本，明治政府・県は目に見えない恐怖であるコレラにどのように立ち向かったのか。人々はその対策をどのように受け止めたのか。コレラから見た近代日本の一画を紹介した。

「コレラ大流行」



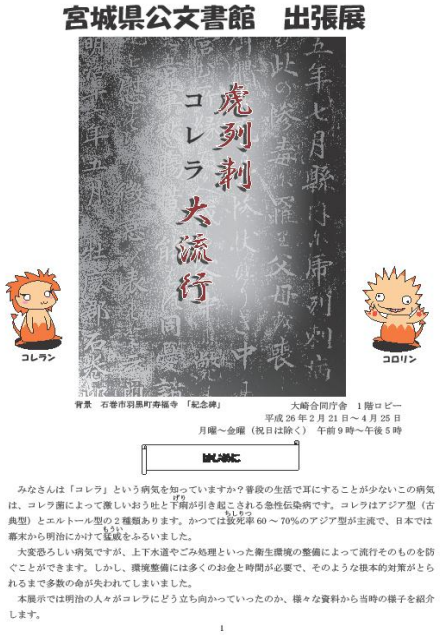


展示資料　　展示パネル（複製資料）など　　17 点

	配架番号	資料名	作製時期	収蔵機関
1	―	「ポンペの肖像」	1862 年	長崎大学附属図書館
2	―	「茶毘室混雑の図」	1858 年	内藤記念くすり博物館
3	―	「青物魚軍勢大合戦之図」	1859 年	国立国会図書館
4	―	「藤岡屋日記」　第八十八 文久二年五月・六月	1862 年	東京都公文書館
5	M12-0093	「本県諭達」	1879 年	宮城県公文書館
6	M15-0094	「本県達」	1882 年	宮城県公文書館
7	M15-0094	「本県達」	1882 年	宮城県公文書館
8	M10-0013	「官省使府県往復」	1877 年	宮城県公文書館
9	M13-0018	「内務省甲・乙・丙号達」	1880 年	宮城県公文書館
10	―	「陸羽日日新聞」	1882 年	宮城県図書館
11	―	「陸羽日日新聞」	1882 年	宮城県図書館
12	―	グラフ　コレラ患者数の変遷 （1989～2001 年）	―	（国立感染症研究所）
13 ~16	―	「赤痢を防ごう―丸森―」 （『宮城県政ニュース』1）	1955 年	宮城県図書館
17	―	拓本　石巻市寿福寺「紀念碑」 （1883 年）	―	―

【出張展（県大崎合同庁舎展：１階ロビー）】

出張展（テーマ：コレラ大流行）を県大崎合同庁舎でも開催した。



宮城県公文書館　出張展

魔列刺 コレラ大流行

コレラン　コロリン

背景　石巻市羽黒町海福寺「紀念碑」

大崎合同庁舎　1階ロビー
平成 26 年 2 月 21 日～4 月 25 日
月曜～金曜（祝日は除く）　午前 9 時～午後 5 時

はじめに

みなさんは「コレラ」という病気を知っていますか？普段の生活で耳にすることが少ないこの病気は、コレラ菌によって激しいおう吐と下痢が引き起こされる急性伝染病です。コレラはアジア型（古典型）とエルトール型の２種類あります。かつては致死率 60 ～ 70%のアジア型が主流で、日本では幕末から明治にかけて猛威をふるいました。

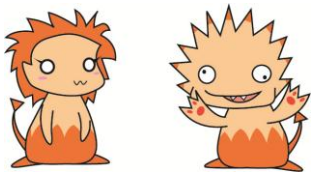
大変恐ろしい病気ですが、上下水道やごみ処理といった衛生環境の整備によって流行そのものを防ぐことができます。しかし、環境整備には多くのお金と時間が必要で、そのような根本的対策がとられるまで多数の命が失われてしまいました。

本展示では明治の人々がコレラにどう立ち向かっていったのか、様々な資料から当時の様子を紹介します。

1

コレラ年表

		日本・宮城の出来事	世界の出来事
江戸	(1817～1823)		第１次コレラパンデミー（最初の世界大流行　インドから）
	(1826～1837)		第２次コレラパンデミー
	(1840～1860)		第３次コレラパンデミー
	文政５　(1822)	日本初のコレラ大流行（下関周辺に上陸　東海道・伊勢路で終息）	
	安政元　(1854)		パチーニがコレラ死亡者の腸内から微生物を発見し「コレラ菌」と命名
	５年６月 (1858)	長崎港に入港（同年５月21日）していたアメリカ船ミシシッピ号からコレラが大流行する（安政５年のコレラ大流行　仙台まで広がる）	
			日米修好通商条約に調印
	７月	江戸でコレラ大流行	
	夏　頃	仙台領内でコレラ大流行	
	(1863～1879)		第４次コレラパンデミー
明治	明治５　(1872)	共立社病院の設立を許可（宮城初の病院）	
	６年９月　(1873)	コレラに関する「意見書」提出	
	10年８月27日 (1877)	「虎列刺病予防法心得」制定	
	12年６月28日 (1879)	「虎列刺病予防仮規則」制定	
	13年７月９日 (1880)	「伝染病予防規則」制定	
	(1881～1896)		第５次コレラパンデミー
	14年９月　(1881)	仙台に初めて避病院が設置される	
	15年　(1882)	宮城県内でコレラが大流行行	
	16年　(1883)	共立社病院が県立宮城病院となる	
			コッホがコレラ菌の分離・培養に成功翌年、コレラ問題会議で公表
	19年　(1886)	宮城県内でコレラが大流行行	
	24年４月　(1891)	県立宮城病院に伝染病室を設置する 付近住民の反対運動が起きる	
	28年　(1895)	日清戦争の復員軍人からコレラが発生 宮城県内でコレラが大流行行	
		仙台市小田原に避病院を設置する	
	(1899～1926)		第６次コレラパンデミー
大正	30年４月１日 (1897)	「伝染病予防法」制定（伝染病対策の集大成）	
昭和	(1961～)		第７次コレラパンデミー
平成	平成10年10月２日 (1998)	「感染症法」制定（コレラは二類感染症）	
	平成19年６月１日 (2007)	「感染症法」改正（コレラは三類感染症に修正）	



（２）広報誌の発行

広報誌の発行は，次のとおり，ホームページに掲載した。

① 「宮城県公文書館だより」

第２３号　　平成２５年９月１日発行

第２４号　　平成２５年１２月５日発行

② 「宮城県公文書館年報」

第１５号（平成２４年度）　平成２５年５月発行

Ⅲ　平成２６年度事業計画

１　管理運営と図書館等との連携及び閲覧等利用に関する諸規程の整備・検討

移転後は公文書館と図書館が併置され，同じ建物内に２つの別個の機関が存在することになる。利用する県民の皆様への利便に配慮し，サービス向上に努めることとし，施設使用のあり方などについて，両者は協議，調整，連携を密にする必要がある。そのため，定期的に打合会議を設ける。

「３０年未経過文書の利用制限に係る検討」及び「歴文選定解除制度化の検討」を行う。

２　資料の選定，保存，利用等

保存期間が満了した公文書の中から，歴史的・文化的価値のある公文書を選定して，収蔵する。

簿冊・絵図面の内容調査及び簿冊の再調査を行い，閲覧台帳及び収蔵資料等検索システムのデータ等を整備する。

保存対策

① 内容調査時の補修

② 公文書のマイクロフィルム化

③ 絵図面のカラー複製化

④ 資料のデジタル化

⑤ 書庫のくん蒸

⑥ 書庫特別整理

３　東日本大震災に係る公文書への対応

公文書館としての役割を積極的に果たすため，被災した公文書への対応の在り方について，関係機関と協議する。

４　広報普及活動

広報誌は，「公文書館だより」及び「公文書館年報」を発行し，ホームページに掲載する。

展示は，展示室の使用について図書館と調整し，併設展を開催する。また，展示スペ

ース「温故回廊」において，定期的に展示替えを行い，分かりやすく公文書館を紹介する。

出張展は、平成２５年度に引き続き県庁展、県合同庁舎展を開催する。

５　会議研修関係

「全国公文書館長会議（国立公文書館主催）」「公文書館等職員研修会（国立公文書館主催）」「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（同協議会主催）」「宮城県博文館等連絡協議会（同協議会主催）」に参加する。

宮城県市町村職員に対する研修会を本館主催で開催する。

６　施設設備関係

移転後１年経過したが、施設管理に当たっては図書館と連携を図りながら適正に管理する。また、史料管理は、史料の適正で安定的な管理を第一に考えて最善の措置をする。

宮城県公文書館

〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目１番１号

TEL 022-341-3231　FAX 022-341-3233

メール:koubun@pref.miyagi.jp

URL:http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/